

第71回市民ふれあいトーク 【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時 平成29年7月6日 18:30~20:00

場所 連島公民館

要約版

《市長》

皆さん、こんばんは。今日は連島公民館における市民ふれあいトーク、皆様には夕方の大変お出にくい時間帯にお運びをいただきまして、ありがとうございます。そして市民ふれあいトーク、『第71回』と書いてありまして、私が市長に就任させていただいて以来、だいたい議会の月を除きまして月に1回くらい、各地区の公民館又は、テーマごとに例えば子育てだとか地域の魅力だとかをさせていただきまして、すみません久しぶりではございますが、連島公民館の方に来させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今日は20時くらいまでの間で、最初に私の方から最近の市を取り巻く状況などをお話させていただきまして、そして皆様とともに、このまちの地域力、地域の魅力を発信するために、また倉敷市が元気になっていくためにどういうことが良いかということで、是非ご意見いただければと思っていますのでよろしくお願いいたします。

この連島に前回お伺いをしました時が、平成23年の台風がありましてから近い時期だったと記憶をいたしております。皆様から、浸水対策のことについていろいろご質問いただきまして、その時の計画というのをお話させていただいたのを覚えておりますが、それ以来の進捗状況について最初にご報告させていただきたいと思っております。先日来、福岡県また大分県、その前は中国地方でも出雲、島根県を始めとして、非常に雨（の被害）が多くなっている状況の中で、我が倉敷市も平成16年、また平成23年に非常に大きな台風がありまして、当地区でも数多くのところが浸水をされた状況でございました。そのとき既に計画は始まりつつあったわけですが、(地図を示しながら)まず一つには連島の水門、ポンプ場の排水機場の機能増設のこと、それともう一つは汐入川の浚渫のことをなんとか前に進めていかなければいけないという思いを、この前回の市民ふれあいトークで皆さんから声をいただきまして進めてきました。汐入川の浚渫の方も、翌年から3回くらいに分けてさせていただきまして、前よりは水の流れも良くなったのではないかと考えております。

そしてもう一つは排水機場でございますが、排水機場に合わせまして遊水池の浚渫をしなければいけないということで、橋が出来るよりなるべく早く、皆様から遊水池の浚渫をするのに、雨が降ったらどうするんだというご心配をいただきましたので、先にこちらをしましょうということをした覚えがありますけど、浚渫ができて、ご存知のように今年の3月25日に「倉敷みなと大橋」ということでこの橋が完成しました。この倉敷みなと大橋は、連島、水島、そして玉島の間を結ぶ国の臨港道路なんですけれど、長さが2,564mで、国が作り出した西日本最大の橋となっております。この橋が出来ることによりまして、水玉ブリッジラインのところなどの渋滞も減ったということも伺っております。少しでも地域のためにお役に立てればと思っています。ポンプ場の方はこの29年度中に出来まして、浚渫をしましてかなり大丈夫なようにはなっておりますが、まだ台風の時期がございまして、今年中は、しばらくは台風が来ないように祈るばかりです。

そして、最近のこの地域、また倉敷市にとりましての大きな出来事と申しますのは、今年のご存知のように倉敷、児島、玉島が3市合併をいたしまして、ちょうど50周年の大きな節目の年になっております。昭和42年の2月1日に3市が合併をいたしまして、そして5

0年ということで市民会館での事業もございましたし、また今日後ろに当日のパネルも持って来ておまして、入った時に見ていただいたかと思えますけれど、この50周年の事業は、地域の子どもさん、地域の皆さんが将来に向けて、地元のことをしっかりと誇りに思って頑張っていたきたいということで、教育委員会からの発案で各小学校で、1m四方の布に地域の自慢の絵を描いていただきまして、そしてそれを全部縫い合わせまして市民会館に貼り出すという事をさせていただきました。そちらに（当地区の）その絵もありますけれど、右の上のところは神亀小学校の皆さんが描いた、運動会の大亀送りの絵ですね。そのすぐ下のところが、霞丘小学校の霞橋と高梁川。そして左の上のところは、これは西浦の額灯しですかね。その下が、連島東小学校の泣菫さんと、これは千歳楽ですね。それらをつなぎ合わせて貼り出しましたところ、各地域の市民の皆さんが大変喜んでくださりまして、これからもまちづくりに向けまして頑張っていきたいと思っております。

次に、この連島、水島また市域全般に、今年の三菱自動車さんの工場の生産停止が、非常に大きな影響があったと思います。それ以来倉敷市としましていろいろな活動をしてきたところですが、先日、ご存知のようにゴーンさんが水島の工場にお越しになりました。その時の写真をいくつか持って来ておられます。（パネルを掲示して）今年の4月に工場が生産停止となりまして、この水島の工場の中では社員の方が3,500人、関連企業の皆さんが約7,000人働いていらっしゃるわけですが、1次、2次、3次の取引先の方が当然その何倍もの人数が働いていらっしゃるということで、とにかく倉敷市としまして、なんとか早くこれを元に戻していただきたいと、これは私がパネルを使いまして、水島の生産台数が前は100万台くらい全体であったのが、今は20数万台に下がっているということをお話しして、それを戻してくださいということをお願いしているところでございます。それからこの水島工場で作っているのが、軽自動車と、ギャランフォルティスという乗用車の一番最後のところだったものですから、新しい乗用車を是非この水島に持って来ていただいて、そして車を作っていただきたいとお願いをいたしておりましたところ、現在岡崎工場で作っていますRVRという非常に人気のある車をこちらに持って来ていただけることになりまして、これから水島の生産は大幅にアップしていくつもりだということをごんさんには言っておりました。私が去年三菱の本社に行きまして、「早く水島の方に来てください」とお願いしていましたところ、お会いした時に開口一番「約束通り、やってきましたよ」と言われました。それで、美観地区も10分少々だったんですが一緒に回りまして、この倉敷のまちの成り立ちを説明させていただきました。今日皆さんのお手元に日本遺産の資料をお配りしておりますよね。倉敷市がこの4月に文部科学省、文化庁の方から日本遺産として倉敷市の繊維のまちづくりが認定になったということをお話しして、倉敷市はもともと、ものづくりのまちなんですよ、ということ、繊維製品の出荷額が今1,215億円で日本で一番多い繊維製品の出荷額です、名古屋とか岡崎とか大阪よりも多いです、というようなことなどをお話ししながら、ご案内しました。そして、ゴーンさんと、私、倉敷市長と、部品メーカーのある総社の市長さん、それから、井原市、笠岡市、浅口市、里庄町、矢掛町、高梁市、新見市、早島町、岡山市の市長さん、町長さんにも声を掛けまして、最初は2人で食事をする予定だったんですが、私としましては、もちろん水島にあるので倉敷市なんですけれど、この工場働く人は倉敷市だけでなく、多くのところから働きに来ていると。それから工場も、総社にある部品メーカーの集積団地をはじめ多くのところにあるということで、多くの市長さんにも一緒に来ていただきまして、いかに我々のまちが、水島の影響があるかということをお

話をいたしまして、ゴーンさんも深くうなずいていらっしゃいました。

それから、私が非常にうれしかったのが、昨年の12月に連島ごぼうが、日本で最初のGI、Geographical Indication、地域の地理的表示に認定をされたということでした。岡山県内では初めて、ごぼうとしては日本で初めての認定ということで、日本で一番良いごぼうだと私もいつも市長会とかで自慢をしておりますし、私が市長になる最初のときに、5月10日のごぼうの日に、美観地区の船の上で、ごぼうを持ってごぼう体操をしたのをよく覚えております。

それから最後に、当地区には倉敷市が大変期待をしております、倉敷芸術科学大学がごさいます。市との間でもいろんな協定を結んだり、学生さんにも協力をいただいたりしておりますので、学生の皆さん、それから先生方にも心よりご期待をしていることを申し上げさせていただきますと思います。

また、すみません、最初に申し上げようと思っていたんですけど、先日市の職員が談合の関係で逮捕されております。その点につきましても、お詫びを申し上げたいと思います。どうも申し訳ございません。今後起こらないような対策を行っているところでございますので、よろしく願いいたします。

それでは、私がお話したことでも、全然関係ないことでも大丈夫なんですけれど、この地域のことについて、また倉敷市の政策のことについて皆様が思っていること、または、もっとこういう所に力を入れれば頑張っていけるのではないかと思うことなどについて、教えていただければ大変ありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

《参加者 A さん》

倉敷芸術科学大学1年のAと申します。よろしく申し上げます。ホームページで、市長様の5つの政策の中の一つの一部として7市3町の連携というものを拝見させていただいたのですが、そのための取組みというのは具体的にはどのようなことをなさっているのですか。

《市長》

はい。ありがとうございます。すごい、ホームページを見て勉強していただいているようですね。(地図を掲示して)平成27年の3月、平成26年度末から倉敷市は、倉敷、総社、高梁、新見、そして早島、浅口、里庄、矢掛、井原、笠岡と、この10個の市町で高梁川流域の連携中枢都市圏というものを作っております。これはどういうものかと言いますと、今、日本全国、多くのところは人口が減っております。倉敷市はおかげさまで、まだ増えておりますし、これからはしばらく大幅に減ることはないと思っておりますけれど、全国で人口が減っていく中で、もともとは人口が地域の中で減らないようにするのは、それぞれの市と県の役割だったのですけれど、最近、県だけでは地域が広すぎてなかなか難しいという状況になったものですので、国が、全国の中で、例えば倉敷市みたいな中核市、それから政令指定都市、例えば岡山県内では岡山市と倉敷市、それから広島県内では福山市と広島市、兵庫県内では姫路、そういう各地域のある程度中核のところ、ある程度大きなところがその周りの市町と一緒にいろんなことを組んでやって、少しでも経済をアップさせようと、そういう活動をしましょうという取組みをするようになりましたのが3年前でございます。今、この61のうちで、だいたい35ぐらいのところがこの連携都市というのを組んでいるので

すけれど、実は、倉敷市は、その中でもほとんど最初に7市3町の連携を組みまして、各市町の連携ということでは非常に全国から注目をされているという状況でございます。高梁川流域の連携都市ということで、この名前のおり、高梁川の水の恵みを受けているみんなで作ってこうということで、今から60年ちょっと前の昭和29年に大原総一郎さんが高梁川流域の市町で、文化や青少年の育成、それからスポーツの振興など一緒にやっていきましたよということをおっしゃったのが最初でございます。それからずっと7市3町で会議をやったり、青少年のリレー大会をやったり、これはもう62回目です。それから高校生の、合唱を一緒にやったり、というのもずっとやってきています。それで何をしているかという、例えば、(パンフレットを掲げて)ここには矢掛町と浅口とかあるんですけど、これまで倉敷市のパンフレットはもちろん倉敷市の観光のことしか書いていませんでした。ところが、倉敷市に来た人は、例えば矢掛の町並み地区にも、行ってみたい人もいます。ですので、倉敷市のみならず浅口や矢掛、井原のことなど一緒に書いて、パンフレットを一緒に作って、それを全国でPRしようということをしています。それから、最近の例でいえば、移住定住のことでございます。今、政府も、東京から一極集中を是正して、なるべく地域の方にとということをやっているのですが、その中で倉敷市は、前は倉敷だけの移住のチラシを作ってたんですけど、今はこの7市3町で一緒になってパンフレットを作って、それを例えば今やっているのは1万部ぐらい作って、東京の移住定住フェアで配りました。この移住定住、まだ1年半少々ですけど、東京から、230人ぐらいの方が倉敷市が設けています移住定住のお試し住宅に来られました。その中で、50人ぐらいの方が、倉敷市だけではないのですが、高梁川流域に引っ越して来られています。ですので、観光や移住定住、それから、今は教育とか、保育のことについても、例えば、保育士さんについても研修を一緒にしましょうとか、それから健康長寿社会の取組みについても、一緒に保健師の人が研修をして、倉敷でやってよかったことは他のところでも取り入れてやっていきたいと思いますよということで、一つのところだけでやるよりもみんなで作った方が、効果が上がるということの取組みをしています。それによって、倉敷だけではなくて7市3町で少しでも活動が活発になるように、また人口が減らないようにという思いで頑張っているところでございます。ありがとうございました。

《参加者Bさん》

連島東地区社会福祉協議会で役員を務めているBと申します。今日はこの会場に会長はじめたくさんの方が来ていると思います。後でたぶん会長の方から話が出るんじゃないかと思いますが、私たちの地区は、毎年地区のみんなで防災を考えようということで防災訓練又は防災講演会などを計画しています。その内容については、たぶん会長の方から(あると思います)。私が言いたいのは、そういうことに当たってどういうことを内容としてやっていくかということで、今年は倉敷市防災危機管理室の方に出前講座ということで講演をお願いいたしました。そうすると、どんなお話をしてくださるのかなって思っていましたら、大きな話ではなく、連島東小学校区の防災について考えるというようなお話をしましょうということで、プロジェクターを使って視覚と、お話だけじゃなくて、目でも見せてもらって、いろいろ勉強させてもらいました。そういう意味で連島もそれぞれの地区で災害の問題が違うと思うので、いろんな地区の方もしっかりと出前講座を活用して防災のことを学んでいったらいいんじゃないかなということで提案をさせていただきたいと思いました。

《市長》

はい。ありがとうございました。会長さんというお話がありました。会長さんにちょっと取組みのことについて、せっかくですから（聞いてみたいと思います）。

《参加者 C さん》

ご親切にありがとうございます。今日の市民ふれあいトーク、いっしょに考えるこのまちの地域力ということと、我々のことがどれぐらいリンクしているのか、ちょっと分からないんですけど、連島東学区の社会福祉協議会として、ご存知かどうか、大きいテーマが5つ、どこのコミュニティもそうですけれど、その5つのナンバーワンが防災訓練というか防災に関することをやろうということで、ここ何年間か続けているんです。たくさん集まってくれるんです。（市長：防災危機管理室が言うには、市内でも1番ぐらいの…）「ぐらい」じゃない。「1番」なんです。それもこれも会長のリーダーシップによるもの…ということではないんですけど、みんな協力してくれますので、その中で今、Bさんが言ったことにちょっと付け加えるならば、連島東学区っていうのは山の近くだから少なくとも津波なんかには強い地域ですよ。それであるにもかかわらず、それぐらい人が寄ってくるというので、ちょっと南の方の亀島とか神亀とか鶴新田とか、そっちの人の方がもっと一生懸命というか、真剣に取り組まねばならないのでは、と思いながらやっています。なぜ（人が）寄るんだろうと考えたときに、だいたい6月にやるんですけど、3月ぐらいから人集めに、まず、地域には回覧を2回通りぐらい回しています。それからごみステーションにはポスターを貼りましょう。小学校の生徒には、チラシを全校生徒に持って帰ってもらいましょう。担任の先生には「絶対来いよ」と言ってもらうように少し強めにお願いしています。老人会、子ども会、PTA、それから何とかの会、何々の会というのがあるんですけど、町内会が大体4月5月ごろ総会をやりまますけれど、そういうところにも行って「来いよ」ということをやっています。自慢話になっちゃいましたね。

《市長》

いえいえ。防災は訓練に参加することから意識が高まるということの、一番いい例だと思います。

《参加者 C さん》

それで集めて、小学校まで来たら防災訓練は終わりですけど、実はそれからスタートするわけです。何かイベントやったり、何かエンジンぶら下げて、これ貰えるよとやったり、模擬店作って、無料で食べさせたり…そんなことをしなくても集まるようにしたいと思っています。以上です。

《市長》

ありがとうございました。その訓練に関わられるお声掛けをされますのは大変なことだと思います。防災の方から、一番の参加だと伺っております。本当にすごいですよね。それだけ入念な準備がされているんですね。それで、神亀とか西浦とか霞丘はもっと上の方にありますけれど、比較的平地にあるところは笹取さんがありますから、こちらの近くの方はみんなあそこに逃げようと思ってるんじゃないかなと思ったりはしたんですけど。昨年これ（ハザ

ードマップ) を家の方に広報紙と一緒に配布しておりますが、今会長も言ってくださったようにこのマップには、例えば津波の時、それから土砂災害の時、それから地震の時ということで、その時に例えば山手に近い方は土砂災害だったら危ないのでそこは避難が難しいですとか、それから海の方に近い所は高潮、津波の時には浸かる可能性がある所はそこは逃げない方がいいということが書いてございます。○とか×で書いてあるので、それを日頃から見ていただいて、地域の安全のために頑張っていただければありがたいと思っております。今Bさんが言ってくださった防災の出前講座の方も、おかげさまで人気が出て来ておりまして、防災の職員もひっきりなしに頑張っていてやっております。また今度9月は防災月間になりますので、よりいっそう頑張っていきたいというふうに思っております。

さて、昨日北朝鮮がミサイルを発射したというニュースがございましたけれど、もちろんそんなことはないかと思えますけれど、今からだいたい2ヶ月ぐらい前でしょうかね、もしもミサイルが飛んできた時にどういうふうに行動すればいいとか、それからどういう音が鳴るかとか新聞とかテレビであったと思えます。最近北朝鮮からのミサイルの数も増えて来ているということで非常に心配いたしておりますけれど、内閣府から聞いている、要は日本の地面のところ落ちてくるようになるということが分かりますと、内閣府の方からいつもの防災の音が出るころから、いわゆる戦争中の空襲警報のようなウーという音が流れるというふうに言われております。それで、それが流れたらとにかく、ミサイルが落ちた時に爆風が来たら危ないので、家の中でもなるべくガラスから離れて窓がないような部屋に逃げるとか、外にいる場合には地面に臥せて頭を防御するとか、そういう対応に取り組まないといけないということが言われております。いざという時にはそのあたりのところも、普通はないんですけど、心掛けていただければと思っております。

それから昨日の福岡県の朝倉みたいなことはもちろんこちらではないと思えますし、(ハザードマップを掲示して) こちらに洪水・土砂災害ハザードマップと書いてありますけれど、これパッと見たら色が全部塗ってありますからいかに全部浸かるような感じですけど、(地図を指しながら) これは高梁川が切れた場合にどうなるかということを示している図です。その切れる一番大きな原因というのは、まあ切れませんけれど、酒津のところの堤防が、つまり東高梁川の前にあったところが、もしも圧力がものすごく掛かって今回のようなことになった時にぱっと来るいうのを示したものです。そうならないように高梁川のこちらの西端のところの柳井原の貯水池のところを切って水を分けてもっと下流の方に水が行くようになれば、この酒津にかかる堤防の水の圧力も少なくなりますので、今でも切れませんが、ここがより切れなくなるわけですね。もともと本流がこう流れていますよね。そこにこっちの小田川からの水が来るからよけいここに強く圧力が掛かるので、もしも切れたらいけないということでこの工事をやることになっています。こちらの真備・矢掛の方もここで非常に本流の流れが強いので、こっちから水が逆流してきて真備も度々洪水になっています。これができるのが国の事業化はもう決まったんですが、まだこれから、今平成29年ですから…平成41年かな。まだしばらくかかりますので、大丈夫だと思いますけれど、昨日のような朝倉とか一昨年でしたかね、鬼怒川の線状降水帯みたいなのがもしもずーっと来たら高梁川の水位だってさすがに上がると思えますので、そういうような状況にもしもなったら、日頃の練習の成果を活かしていち早く連島東小学校か籠取さんに逃げるといことをお願いしたいと思っております。

《参加者Dさん》

さきほどのCさんのお話の中にもあったんですが、私は矢柄住宅の135世帯の会長をしておりますDと言います。倉敷市にお願いすることは地元の大橋先生がおられるので大抵のことはできるんですが、この防災だけは、私が一番悩んでいるのは135世帯の中で107人が70歳以上なんですね。そしたら、もし何かあった時にこの人たちをどういうふうに誘導する。皆さん役を付けて待ってますけど、その人達にも家族がありますからその家族を先に守らないといけん。その後ということになると、倉敷市の方で何時間後に津波が来ますとか時間を指定してくだされば、長い時間掛かってくるのであれば間に合うんですけど、短かったらもうそんなこと言っておれませんので、一番悩んでいるのが、皆さんにどういうふうにお願ひして避難してもらおうように手続をするか。防災訓練は私らも地区社協で6~7回やっていますけど、もう自分の町内から小学校へ来るまで何人で何分かかったか、それで終わるんですね。私がお願ひしたいのは、危機管理室の方にそういう皆さんをお守りするのにどういうふうにすればいいのかとかそういう講演なんていっぺんもないんですよ。そこらへんをもう少し倉敷市の危機管理室の方で把握していただいて講演してくだされば助かると思いますので、よろしくお願ひします。

《市長》

ありがとうございます。今言われましたこと、地域の中で逃げるのに手伝いが要る皆さんが、当然年長社会になってきていますので増えて来ていると思います。一番恐ろしいのはもちろん南海の地震だと思います、この近くで言えば。その確率も上がって来てまして、倉敷市は震度6近くになるというふうに言われています。その時の、建物の倒壊ということがありますので、それはそれぞれの耐震工事とか、それから家の外に出るということが必要になるかと思うんですが、こと津波のことになりますと、一応南海の地震が来た時に、倉敷市に津波が上がってくるのは約3時間はかかるというふうに言われています。ですので、ある程度順番に段取りをして逃げて手伝うということもできるんじゃないかとは思っています。今ご存知のように要援護者台帳というのを毎年更新して作成していますが、今年度より名前や年齢だけでなく、自分が知っておいてもらいたいことも書いていただけるようになっていきますので、日頃から町内での訓練とかにも活用していただければというふうに思っております。それとあとは、台風のようなある程度来るのが分かっている時には、市の方もなるべく早めに避難勧告を出して行こうと思っていますので、避難所の方にみんなで声を掛け合って逃げていただくというのがお願ひできればと思っています。市の方も防災にも頑張ります。ありがとうございます。

《参加者Eさん》

神亀学区コミュニティのEと言います。我々神亀学区、学校の校歌にも小学校の校歌の中にも含まれている亀島山ってあるんですけども、その亀島山については最近いろんな話題で取り上げられております。そこには戦争遺跡となる地下壕ってありますね、その地下壕を先だってうちの町内の老人会の方が三十数名の方が中に入って見学したんですけども、これをなんとか整備していただいて保存する方向でなんとかならんのかなあと皆さん言われるんです、いろいろな問題があると思うんですけども、まあ中に入ると大変整然としていますね。だけどころ遺跡っていうのは日本にもう今幾つもないわけですね。そういうことで是非

水島にそういったところがあると知っていただいて、まして私らが住んでいる目の前にそういったところがあるということで、これはなんとか取り組んでいただいて市の遺産というんですか、それからまた水島の活性化にも繋いでいただいて、水島の観光の拠点としていただければ幸いなんですけども、そういった取組みが可能なのかどうか市長にお聞きしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

《市長》

ありがとうございました。Eさんの方から亀島山の遺跡のことについて言っていただきました。神亀の場合は津波が来た時には、津波の方向に行くようになるんですが、亀島山の方に逃げていただくというのが非常に高さも高いんで有効だと思っております。今言っていただきましたように、亀島山の戦争遺跡は日本の中でも非常に貴重なものというふうに倉敷市も認識をいたしております。保存ということと、それから例えば中を改修するのとか、そういうあたりについてなかなか非常に権利関係も複雑な状況でございますし、あと年数も経っておりますので、安全性の観点からあんまり中を奥の方までは行かれないということもありまして、市といたしましては現在のところ、さっき言われましたように、特別の見学のご要望がある時に見学をしていただけるといようなかたちになっております。こういう貴重な遺跡があるということ倉敷市としても守り、それから伝えていくということが非常に重要だと思っております、なかなか大々的には難しい状況なんですけど、引き続きPRの方も頑張りたいと思っております。ありがとうございました。

《参加者Fさん》

倉敷芸術科学大学のFです。いつも学生が大変お世話になっております。(市長：今日は学生さんも何名か来ていただいているようで、ありがとうございます) 私からは学校関係者として、臨海鉄道に自転車に乗れるようにして、さらにいろんな形で地域の活性化に結び付けることができないだろうかという提言をさせていただければと思ひまして。今は折り畳みとか袋の中に入れて載せることができないんですけども。倉敷みらい創生戦略で、地域力に関連しまして、「地域を誇りに思い、地域を支えたいと思う人材育成」が倉敷市で重要な戦略として示されていて、その一環として、この水島臨海鉄道の「りんてつ沿線手帖」という臨海鉄道10の駅の周辺を、小学生、中学生、高校生、大学生それから商工会議所青年部さんが一緒になりまして、ガイドブックとして出版されました。出版式には市長様にもご出席賜りました。(市長：はい、ありがとうございました) これが昨年度でしたので、今年はそれをさらにグレードアップしまして、駅周辺を自転車で回れないだろうか。水島エリアはフラットでありますし、このエリアも大きな道がありまして、自転車専用レーンもかなり整備されています。そういう意味では自転車にとっては非常に恵まれたインフラが整備されている。そして倉敷みなど大橋ができて、その片道1車線が自転車歩行者専用ということで、非常に素晴らしい環境があります。今は鉄道に自転車を持ち込むことがブームになっており、JR山陽本線の岡山一尾道間の「ラ・マルしまなみ」とかがサイクリングの人気になっておりますし、島根の一畑電鉄も自転車持ち込みが一日中オーケーということで、休日ともなると家族連れや本格的なサイクリストまで、たくさんの自転車ファンが全国からやってきました。このように、倉敷コンパクトシティ構想ということで、水島臨海鉄道沿線で臨鉄を自転車を使って、地元の方は車を使わずにショッピングを、県外の方は本格的なサイクリ

ングをとということで、臨海鉄道沿線、倉敷みなと大橋が世界のサイクリングの聖地になって、倉敷がさらに賑やかになればいいなと願っております。

《市長》

どうもありがとうございました。まずFさんにおかれましては、倉敷芸術科学大学におきまして、大学と地域との連携の担当の先生といたしまして、いろいろ市と協定を結んだり、それから、今日の学生さんたちは倉敷の講座とかも取ってくださったりしているんですかね？（Fさん：はい）せっかくなんで皆さんにも知っていただきたいんで、自分がどういうことを勉強しているのかとか、ちょっと後から発表してもらいたいなと思います。実は「COC事業」としまして、英語の「C, O, C」これは何かというと、「センター・オブ・コミュニティ（Center of Community）」と言いまして、大学が地域、コミュニティの中心的な役割も果たしていくための一翼を担いましょうというのが文部科学省から認定されてまして、それに芸科大さんはいち早く認定になったわけです。具体的に何をしているかということ、今日来られている学生さんたちが、地元の倉敷のことを大学の授業の中でも勉強して、そして倉敷のいろんなことに興味を持ってもらって、活動に参加してもらおうというのを一生懸命やったださっています。せっかく学生さんがいらっしゃっているのでひとつ言ずつお願いします。

《参加者Gさん》

倉敷芸術科学大学2年のGと言います。私の学科は経営情報ということで、経営だったりパソコンを使った情報について学んでいます。先ほど紹介された臨鉄のガイドブックにも参加させていただいて、弥生駅周辺を担当して、自分は県外から来ているもので倉敷という土地に慣れてはいないんですけど、こういった活動を通して、普段ほかの大学の人でも知らないような地域の情報だったりとか、実際にインタビューをして回ったんですけど、倉敷の人たちの心の温かさと言いますか、地域のコミュニケーション、連携の強さなども知ることができました。今後もこういった活動にも積極的に参加をして、こういった中で倉敷の知識を深めていきたいなと思っています。

《市長》

どうもありがとうございます。他に自分がどういう活動をしているとか、COC事業のこととか、ガイドブックでどういうのを担当したとか言ってみてください。

《参加者Hさん》

臨鉄にはあまり深く関わってないんですが、移住定住の方で、この間市役所にちょうど行かせていただいたばかりで、移住定住推進室の方と、こうしていった方がいいんじゃないかということを考えています。自分は県外から来ているので、倉敷はこういうところなんだなということが少しずつ分かり始めた段階なのですが、一人暮らしで苦しんだので、こういうサポートがあったらそのまま倉敷に残ってくれるんじゃないかということを考えながら今、提言書を作っている段階です。9月に発表させていただくので、よろしく申し上げます。

《市長》

分かりました。移住定住で、こういうことをもっとやればいいんじゃないかという提案ですね。是非よろしくお願いします。移住された方たちがどういうことに困るかということ、学生さんで、まだ移住ではないですけど、来られて生活して分かりにくいこととかいうのが、我々も参考になることも多いと思うんで、レポートを楽しみに待っています。ありがとうございます。

《参加者 I さん》

倉敷芸術科学大学2年のIです。僕は生命科学科で魚の養殖とかの勉強をしています。その傍ら、COC事業にも参加させてもらって、倉敷のことについて一緒に勉強しているんですけど、僕は兵庫県の神戸市出身で、阪神淡路大震災がありまして、災害のことには敏感で、そういう面から倉敷を見ていて、もっと災害のことを身近に感じられるようになったら、若い人たちももっとそういうのに参加してくれるんじゃないかと思っています。どこだったか、電柱に、津波が来た時にこのくらいの高さで、何メートル先に逃げるとかいう印があったのを覚えているんですよ。そういうのを通学路などに付けてありまして、小さい子供たちが「ここだったら僕溺れちゃう」みたいな話をしている、そんなにコストもかからないと思うし、ちょっとした工夫でもっと防災に興味を持って、参加していただけるようになるんじゃないかなと思います。生命科学科であまりこの話には関係ないんですが、COCを通して、倉敷がすごく魅力的で、美観地区もそうなんですが、工場地帯の夜景がすごくきれいだと思います。

《市長》

芸科大は私たち地元が要望して来ていただいた大学ですし、本当に学生さんたちもいろんな活動に頑張っていただいております。今年の水島港まつりで（パンフレットを掲げて）パンフレットの表紙のところにアンブレラスカイと書いてある、傘がたくさん吊り下がっているのがありますが、これを今回、芸科大の学生さんたちが手伝ってくださって、中心でやってくださるとかがっておりますので、是非皆さん、7月の29、30日に、水島港まつりにお越しいただければと思っています。ありがとうございました。

《参加者 J さん》

連島2丁目の町内会長をしているJです。私たちは8月の第4土曜日に瀬戸内学園の知的障がい者とふれあう夏祭りをやっています。その時に、私は防災士もやっていますので防災コーナーも設けて、子どもたちとか来てくださった大人たちにいろいろ防災について説明したりしています。ですが雨になったら公園で屋根がないのでできません。そこで2丁目に瀬戸内学園の寮（ホーム）があるので、そこでテントを建てて、2人くらいで、こじんまりやっています。公園に、今は年寄りを集めて毎週火曜日、茶話会をやるようにしています。プレハブの倉庫をちょっと改良して、詰めて20人くらい、前は千羽鶴とか鍋敷きとか今は人形を作ったり。そういう時はせいぜい10人来たらいっぱい座れなくなります。東の第二公園は平地の割には遊技場が1.4メートル高いんですね。その高い東側を有効活用すればいい防災避難所にもなるんじゃないかと思っていますし、雨の時にその辺でイベントができればいいんじゃないかなと。今日も木の剪定をしてもらったんですが、毎年7〜8本しか切ってもらえないんです。いっぱい切ってくれといっても「予算がありませんので」とすぐ言われる。

木が第二公園に7, 80本あるんです。毎年いっぱい切りたいんですが次の年にはもう2年前に切ったのをまた切らなければならぬくらいになってしまうので。あんまり茂ると昼間でも暗いところができますので、できるだけそうならないように考えて切っていただければいいんじゃないかと思います。

《市長》

ありがとうございました。公園の木の剪定をはじめ、いろんな管理のことについては、市の施設もいろいろ老朽化をしてきたりとか、更新をしないといけないとか、改修・修繕というのが結構出てきています。前は10本切れていたのが今は7本くらいだったりとか、ご迷惑をおかけしていますけれど、予算自体もこれからどんどん新しいのを増やすよりも、維持管理の方に割り当てしていかなければならないというふうに思っています。ちょっと具体的なことがすぐにわからなくて申し訳ありませんが、全般的にはそういうふうに思っています。

《参加者Kさん》

大江町内会のKと申します。市長は安全・安心のまちづくりを推進していると思います。昨年ですか、5年以内に防犯灯をLEDにするということで、私去年と今年、水島支所へ防犯灯の補助金をいただくのに書類を出して、オーケーをいただきまして、したわけでございます。私ども240世帯あって防犯灯が65灯あるわけでございます。去年と今年と、あと3年で5年になるわけでございますけれど、補助金がやっぱり頼りで、1町内に8灯ということで。一昨年までは10灯だった。去年は、4月を超えたらもう補助金なくなりますから、早く出してくださいと言ってたんですけど、今年はかなり件数を増やしていただいているということで、8灯をもうちょっと10灯とか15灯とか、そういう風に補助金が増額できないかということと、5年以内に本当に倉敷市全体で防犯灯がLEDになるかならないかということも、ちょっと不信感を抱いているわけでございます。以上です。

《市長》

ありがとうございました。今、環境の世界の中でLEDの方が電力も少ないし、長持ちするしということで、なるべくLEDに替えましょうということでやっております。それで5年以内としましたのは、市としてはなるべく早くできるものなら替えていただいた方が電力の関係もいいということなので始めて、今もちろん5年以内にといいつもりなんですけれど、一方で5年以内にと言いましたら、申請が大変たくさん来まして。最初10灯だったんですけど、先着順なもので最初にばっと来て、予算がすぐになくなってしまったもので、29年度は予算も増やしたんですけど、10灯だとなくなってしまうかもしれないということで、すみませんが8灯に減らしたという状況でございます。今後どうするかというのは、今年の状況も見まして何灯までにするのか、希望が結構多いので、10灯までは1年にはなかなか難しいかなと思うんですが、全体の更新の状況も見まして、例えば延長をするのかどうか、相談してから決めていきたいなと思っているような状況でございます。

《参加者Lさん》

亀島のLと言います。市長にお願いが。防災関係で、ポンプが年度末までには動くんですかな。(市長：年度末までには完成する予定と) 亀島いうところは東学区からずっと神亀学区

まで水が一番、水門があるところなんです。倉敷市には土木委員というのがおまして、亀島の水門にはうちの町内に水門管理者というのがおまして。この前2回浸かったんですかな。1回目のこともいろいろあるんですが、2回目うちに電話が。「Lちゃん、産業課から逆流するかもわからんと言うてきたんじゃ」と。そういうことは私に出て来いということで、水門へ。行くんですけど、天気のいい、日の照りようる時のようにはいきません。台風で風が吹いて水門を開けても、どっちに流れてるかそれを判断せえ言うんじゃけん。これからはポンプをつけてもろうたんで、そういうことはもうないと思いますけど、お願いはポンプが肝心の時に動かんようにならんように、平素から管理を。いつか新聞で見たら玉島の方でも。

《市長》

そうなんですよ、あれは岡山県のポンプですが、肝心の時に動かなかったことがありましたね。

《参加者Lさん》

使おうと思った時に動かんということがないように管理をよろしくお願いします。

《市長》 1:22:58

わかりました。ありがとうございました。

《参加者Hさん》

倉敷芸術科学大学3回生のHです。大学生なんで、結構夜遅くまで学校内で勉強してたりとか、バイトとかで夜遅くまでいることが多いんですけど、倉敷市内、夜電気が消えるのがすごく早くて、お店が早く閉まるというのもあるし、街灯がすぐ消えるというのもあるって、夜帰る人たち真っ暗で全然前が見えないとか、ちょっと怖いという感じで、街灯が消えているところが多いです。そういうところは直したりというのはあるんですかね。

《市長》

街灯は市の街灯と町内の街灯と学校の街灯と、地域によって企業さんがつけている街灯と実は結構種類があります。市の街灯のことだけで言いますと、定期的に点検をして切れたままにならないようにはしているつもりなんです。もちろん、それぞれ点検をしてくださっているといるんですけど、切れてしまっているのがあるのかなとは思いますが、ずっと切れているところがあるようだったらまた後で教えてください。街灯をつける距離がある程度決まっているので、倉敷市だけ多くつけるのは難しいですけど、確かにずっと切れたままだと危ないと思いますので、気づいたところを教えてください。

私の方から最後に、この前市議会でも報告させていただいたんですけど、4月にニュージーランドから首相が日本に来られました。ニュージーランド国なんだけど、首相の名前はイングリッシュさんという方で、ちょっとややこしいんですけど。安倍総理と会談をされたんですけど、安倍総理から倉敷市に招待がありまして、総理の会談が終わった後に公式の会食会をするので市長来てくださいということがございました。ご存知のように倉敷市とニュージーランドのクライストチャーチ市が姉妹都市で、両国の間の最初の姉妹都市なので、首相が来た時の公式歓迎会の時に来てくださいます。いつものデニムの服を着て行きます。

首相の挨拶とかがあった後に、安倍総理とイングリッシュ首相がずっと回って来られたんですね。その時に安倍総理が「こちらが倉敷市の伊東市長です」というふうに紹介していただきまして、私の方から倉敷市はクライストチャーチ市と国同士の最初の姉妹都市ですと、英語でペラペラッと言いましたところ、イングリッシュ首相は、クライストチャーチ市の大地震の時に、倉敷市独自で救援隊を派遣したり、市民の皆さんで募金して送ったり、いろんな救援物資を、例えばブルーシートとか、マスクとか送りまして、ということを全部ご存知で、イングリッシュ首相から、倉敷市が地震の時に助けてくださったこと、倉敷市とクライストチャーチ市の長い友好のことについて、くれぐれも市民の皆さんに感謝の気持ちを伝えてくださいということ。私もちゃんとお伝えしますということで、この前議会で申し上げたんですが、せっかくの機会でございますので、皆様にご報告をさせていただきました。

その夕食会の席に隣の席に座られた方が、すごい大きい、スポーツマンタイプのシルバークレーの紳士の方だったんですよ。名刺を交換しましたら、なんとオールブラックスの総監督、ニュージーランドはラグビーが世界一でございまして、あのシダの形をしたエンブレムの、その監督が隣の席になりまして、倉敷市は2020年に向けてオリンピックの競技の誘致をしたりしてるんですけど、さすがにオールブラックスは難しいかなと思ったんで、ラグビーは。倉敷市の玉島高校が今年花園ラグビー場に代表で行きましたということだけは、オールブラックスの監督に伝えて、監督から選手の皆さんに頑張ってくださいというメッセージもあったんで、せっかくですので、皆さんに最後にご報告させていただきました。

時間となりましたのでそろそろやめておこうかと思っておりますけど、皆様には日頃から大変お世話になっておりまして、今日は特に防災に関するいろいろな取組みでありますとか、今後こうすべきじゃないかということをお願いしたいと思います。この連島、連島ごぼう、連島レンコン始め、本当に多くの素晴らしい農産品、また大学を始めとする素晴らしい皆さんがいらっしゃいますので、地域の皆さんがますます発展のために頑張ってくださいことを心よりお願いしまして、今日の会の終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。